



つみたてのいちごは格別です

鈴木さんの説明に聞き入る生徒たち

勉強のあとには あま〜いいちご —中学生が就農支援研修センターを見学—

6月6日、東関内町にある就農支援研修センターに札幌市立簾舞中学校の2年生約50名が訪れました。センターでは巨理町から移住したいいちご生産者の皆さんが栽培試験に取り組んでいて、その一部を見学・研修するという学校行事の一環です。

生徒からの「巨理町と北海道でのいちごの育て方の違いは？」との質問に、案内を務めたいちご生産者の鈴木秋衛さんは「燃料費がすごくかかる。次回は覆いを増やすなどの工夫をしたい。また、気候の違いで収穫時期が巨理町より遅い」など丁寧に回答し、生徒たちは熱心にメモを取っていました。説明の後には、お待ちかねのいちごの試食があり、その大きさと甘さに歓声が上がっていました。

継続は力なり！！ 長年にわたり寄付を続ける秘訣

5月31日、南黄金町の清野松雄さんが日本赤十字社北海道支部伊達市地区への寄付金を地区長である菊谷市長に寄贈しました。

赤十字の原則に心を打たれた昭和45年以来、40年以上の長きにわたり継続して寄付を続けている清野さんは「飢餓に苦しむ人や勉強したくてもできない子供たちの映像が眼に焼き付いている。それに、男なら一度決めたことは最後までやり遂げたい」と原動力となった想いを熱心に語られました。



市長・副市長と歓談する清野さん

説明を熱心に聞く地域の方たち



災害の恐ろしさとその備え方、勉強しました

5月28日、長和18区自治会の65歳以上の方を対象に行っている「なかよし広場」で、市の宅配講座が行われました。

「地域の防災」をテーマに災害の種類と特徴、対策について、市自治防災課の担当者が映像を交えながら説明。伊達市民にとって身近な有珠山噴火を例に取り上げ、避難するときの心構えや日常生活で気を付けることなどをわかりやすく説明し、参加者は熱心に耳を傾けていました。

人権啓発活動ネットワーク協議会 「人権の花運動」

6月12日、稀府小学校で「人権の花運動」の贈呈式が行われました。

これは学校の花壇などに苗を植えて自然との関わりを通して命の大切さを伝えようというものです。

稀府小学校ではかしわ会（児童会）の役員を務める2名の児童がマリーゴールドなどの250苗を人権擁護委員の大越郁夫さんから贈られ、ポットに植えました。きれいな花を大事に育ててねとの声に、顔をほころばせ願っていました。



人権の花を植え終えた児童たち

伊達産野菜を使った健康によい料理です



「健康づくり伊達21」 食の情報提供

6月5日、くみあいマーケット催事場で「健康づくり伊達21」食の情報提供が催されました。

この催しは、市の保健師・栄養士による健康・栄養相談や市食生活改善協議会の協力で野菜料理の試食会などを開き、市民の方に食生活や健康に目を向けてもらうという市の試みです。買い物客は試食として提供された「だて野菜のお好み焼き」や「伊達産水菜といちごのスムージー」に興味津々。自宅でも作れそうだとレシピを確かめていました。



国際ソロプチミスト伊達 市内小・中学校へ図書を寄贈

6月17日、国際ソロプチミスト伊達の上田睦子会長と大光菊江副会長が来庁し、市内7つの小・中学校へ図書を寄贈しました。

国際ソロプチミスト伊達は長年、この活動を続けてきましたが、残念ながら今年が最後になりました。

同団体は、昭和57年から働く女性の奉仕団体として尽力、今年で30年を迎えましたが、当初20名いた会員も実際に活動できるのが現在4名に減り、「この人数では先輩たちに恥じない活動続けることは難しい。今ここで思い切ろう」と決断し、6月30日に解散することになり、最後の奉仕活動として、この日を迎えました。



上田会長から目録の贈呈



過去の活動を振り返る市長や会長たち